山本製作所　お客様と共に農業の新時代を

AI搭載の乾燥機など　秋田県種苗交換会で発表

山本社長

今年100周年を迎えた山本製作所＝山本丈実社長、本社：山形県天童市＝は先頃開催された秋田県種苗交換会の会場で、新時代の農業に向け①業界初のAIを搭載した遠赤乾燥機②下秤式計量方式にモデルチェンジしたフレコン計量ユニット③40袋入りを追加した低温貯蔵庫など、担い手農家の農産物の品質向上や効率化をサポートする新製品3機種を発表した。

発表会の席には、鈴木淳・執行役員農機事業部事業部長、松谷俊弘・同副事業部長兼技術部部長、奥山量徳・同技術部農機グループチーフが出席した。

【遠赤乾燥機Windy BUILD（ウィンディ ビルド）】HD―55VAR、HD―65VNRなど全8型式。

愛称であるウィンディビルドの「ビルド」には「創造する」「創る」という意味がある。これには、100年間お客様と共に歩んできた山本製作所が、これからもお客様と共に農業の新時代を創り上げて行きたいという想いが込められている。「ウィンディ ビルド」には大面積をこなす担い手農家の穀物乾燥における品質向上並びに効率化をサポートする5つの特長を有している。

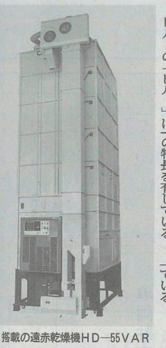
最大にして1つ目の特長は、業界初となる「人工知能（AI）」の搭載だ。乾燥終了時刻を指定できる「仕上予約モード」を選択することで、休止乾燥を効果的に組み入れ、品質ムラの少ない高品質な籾に仕上げることができる。AIが蓄積される乾燥データを分析することで、予定終了時刻の算出精度を向上させている。

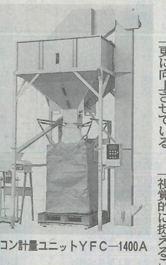
2つ目の特長は新設計の大型風胴の採用だ。従来の乾燥機より約30%大型化することにより、最大20%の乾燥時間の短縮を実現した。この乾燥時間の短縮が、前述の仕上予約モードにおいて休止乾燥の効果的な組み入れに寄与する。また、風胴後部には山本独自の排熱回収機構を採用、好評のウィンナビの省エネ性を更に向上させている。

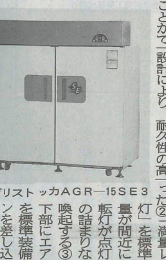
3つ目は、デザインを一新した新型操作盤だ。6インチの大型画面により視認性を向上させ、またダイヤルの採用により直感的な操作を可能し、使い勝手がいい。また、山本伝統のプログラムタイマを復活させることにより、乾燥と休止を視覚的に捉えることができるようになった。

4つ目は「撹拌モード」の搭載。乾燥機左右の籾を等しく循環させるのではなく、左右の循環量のバランスを崩すことで、乾燥機内に堆積する籾の層を混ぜ合わせることができる。水分の異なる別々の圃場から張り込んだ時に撹拌モードを使用することで、ユーザーが抱える水分ムラという悩みの解消に貢献する。

最後の5つ目は、これまでの安定した耐久性の継承。乾燥機内での穀物の動き、流れを考慮した設計により、耐久性の高い部品を従来から適材適所に採用。ヘビーユーザーである担い手も満足できる安心を提供する。


AI搭載の遠赤乾燥機HD―55VAR


フレコン計量ユニットYFC―1400A


アグリストッカAGR―15SE3

【フレコン計量ユニット】YFC―1400Aなど全3型式。

今後益々個袋出荷からフレコン出荷の流れは加速する。そのような需要の変化に対応し、従来の『上秤式』から販売ターゲットとなるプロ農家を中心とする市場ニーズにマッチした『下秤式計量方式』へモデルチェンジする。検定付になり、更には計量時間を自社従来機比1/3を実現した。

《主な特長》①「操作部」のデザインを一新＝ボタンとダイヤル方式を採用し、従来型より各種設定がやり易くなった。サンプル装置との連動も簡単になり、取得間隔や取得量も設定が可能となった②「満量レベル警告灯」を標準装備＝満量が間近になると回転灯が点灯し、不測の詰まりなどを注意喚起する③「昇降機下部にエア掃除口」を標準装備＝エアガンを差し込み吹き込むだけで、昇降機下部の掃除が簡単にできコンタミを防ぐ④サンプル装置の「ターンテーブル」を自動回転式に変更＝手間がかからず、一定時間ごとのサンプル取得が可能となった⑤組立性を向上＝梱包形態の改善をし、組立時のリフトアップも可能となった。現場での組立人員・工数も、従来の3人・約5時間から、2人・約3時間に人幅削減を実現した。

【低温貯蔵庫アグリストッカAGR―SE3】

従来シリーズの8・15・21・28の4型式に、市場のニーズに応えて、今回新たに40袋入りをラインナップした。

《AGR―SE3シリーズに導入された新機能》①消費電力量20%カット＝本体の『断熱性』を向上させたことにより、従来機との比較で消費電力量20%カットを実現②光触媒脱臭機能を搭載＝業界初となるこの新機能の導入により、アグリストッカ庫内の空気を循環しながら、大切なお米を臭いから守る。

左から松谷技術部長、鈴木事業部長、奥山チーフ

木質ペレットストーブ

山本製作所　100周年記念モデル

木質ペレットストーブ「OU」

山本製作所・ソリューション事業部＝山形県東根市大字東根甲5800―1＝は、10月26日、東京都世田谷区の二子玉川蔦屋家電で、木質ペレットストーブ100周年記念モデルOU（オウ）の発表会を行った。

同社では2003年から木質ペレットストーブの生産を開始。その後、東日本大震災の影響による再生可能エネルギーの急激な高まりによって普及が進み、北海道や東北・北関東を中心に販売を進めてきた。

こういった状況を踏まえ、更なる充実を図るべく、このほど創業100周年を記念、新型OUの商品化を図った。OUは、「手軽に本物の炎が楽しめる」という木質ペレットストーブの最大の特長はそのままに、都市部の消費者向けに新たなコンセプトとして「洗練された美しいデザイン」「日常で使いやすい機能」を取り入れている。

10月27～28日には、一般客を対象にした展示会も行われたが、このところお洒落な街、洗練された街として人気急上昇中の二子玉川の住民が大勢立ち寄り、同社による「暮らしを豊にするために、新しく面白いものを求める感度の高いお客から非常に良い反応をいただくことができた」としている。

OUの正式販売開始は来年秋の予定で、価格はオープン価格。

ライスジュレ試食会

ヤンマーアグリイノベーション　パリの食品見本市で

ヤンマーのグループ会社であるヤンマーアグリイノベーションは、10月21日～25日にフランス・パリで開催された、世界最大級の食品見本市「SIAL Paris '18」に、お米由来の食品素材ライスジュレを出展。また、この出展に先駆け10月18日に、ミシュランガイドで1つ星を獲得したパリ市内の「Restaurant PAGES」で、現地メディア向けの事業説明およびライスジュレを使用した料理試食会を実施した。

【SIAL Paris '18出展について】5日間にわたり開催された「SIAL Paris '18」は、出展社数7200社、来場者数は31万人を記録した。

この展示会で、同社は「Diet」のカテゴリーでライスジュレと同素材を使用したグルテンフリーのフィナンシェとバゲットを出展した。欧米を中心に健康的な食への関心が高まっている中、ライスジュレは、保水性・乳化性・増粘・ゲル化安定などの機能があり、グルテンフリー食品や食品添加物の代用品として使用できることから、多数の食品業界関係者が関心を示した。

【試食会について】「Restaurant PAGES」のオーナーシェフ手島竜司氏がライスジュレの可能性と、同社の「米の消費拡大と農業の活性化に貢献したい」という想いに共感したことから、同社がライスジュレを使ったレシピの開発を依頼し、実現した。

試食会では、ライスジュレの特長を説明するデモンストレーションの他、ライスジュレを使用した料理4品（蕎麦粉のガレットグルテンフリー、クリームカレースープとモチモチグルテンフリーパン、ブリオッシュマフィンバーガー、中華パンキャスクルートすき焼き）を提供した。

同社は、今後も米の新しい付加価値を創出することで、米の消費拡大と日本農業の活性化に貢献することを目指し、食品メーカーや、ホテル・レストランなどの業界へライスジュレの提案を行うとともに、ヤンマーのECサイト「premiummarche.com」を通して一般消費者向けの普及を行う。

㊧手島シェフと㊨橋本社長

ウォーカー芝刈機

サンエイ工業　3タイプを先行投入

サンエイ工業＝毛利剛社長、北海道斜里町＝は、米国の芝刈機大手WALKER社のゼロターンモアを日本国内で11月から販売開始する。その第一弾として市場からの要望が強い刈取芝回収タイプ3モデルを先行投入。来年度はディスチャージ、マルチングタイプも随時投入する。

WALKERは30年以上の実績を積み上げた高性能芝刈機。プロユーズの業者ばかりか、個人でも、「運転やメンテナンスがしやすい」と高く評価されている。特に、「刈取後の芝の美しさは、他を寄せつけない」の声も聞かれる。

《主な特徴》①コンパクト②軽快なステアリング③安定したバランス④機敏性⑤正確なトリミング⑥フロントデッキならではのアクセス⑦抜群な視界性。

《発売モデル》▽S14i Kohler ECH440▽エンジン＝429cc▽デッキ幅＝91／107cm。▽C19i Kohler ECH630▽エンジン＝694cc▽デッキ幅＝91／107／122cm。▽T25i Kohler7400▽エンジン＝747cc▽デッキ幅＝91／107／122／132cm。

◇

同社はフリーチョッパー「刈取後の一「忍者かるぞー君」シリーズやラジコン斜面対応チョッパー・スパイダーシリーズなど各種草刈機をラインナップ。9月に、今回紹介した「WALKER」の日本総代理店となった。

C19i

IHIアグリテック　GPSナビキャスタMGCシリーズ

肥料節約等に効果　地図データから可変施肥

宮原社長

IHIアグリテック＝宮原薫社長、北海道千歳市上長都1061―2＝は、新型のGPSナビキャスタMGCシリーズの販売を開始する。マップデータより可変施肥を実現し、一層の生育均一化や肥料の節約ができる。今回は都府県地域の水田農家をターゲットとした小型GPSナビキャスタも新発売。経費節減と品質向上の両立を図れる新兵器として喜ばれそうだ。

今回同社が発売したGPSナビキャスタは大別すると小型スパウトタイプ（MGC200PN・同300PN・同400PN）と中型スパウトタイプ（MGC452PN・同602PN・同1202PN）、そして2スピンナータイプ（MGC602WN・同1202WN）の3タイプ。

マップデータから可変施肥が可能になった点が従来機から進化した点。地力の均一化を考慮しほ場の条件に応じた施肥マップを作成。同機はリモートセンシングデータを利用したISO11783―10形式、または空撮画像とGISツールから作成したKML形式データに対応。そのデータをUSBメモリからナビゲータ部に入力すると、マップ情報に沿って可変施肥を行う。「必要なところ」に「必要な量の肥料」を自動調整して散布。つまり可変施肥することにより、生育の均一化、ほ場の地力の均質化、肥料代の節約などにも作用する。その他同機の主な特長は次の通り。

①GPS車速連動とシンプルでわかりやすい経路誘導機能＝トラクタ上部に取り付けたアンテナよりGPS速度情報およびGPS位置情報を取り込み、適正な散布量になるよう、シャッタを自動開閉。経路誘導はシンプルでわかりやすく、隣接散布、外周作業後内工程作業散布の2パターンから選択が可能②直線走行の途中で作業を中断する時に便利な「ブレークリターンシステム」＝肥料がなくなるなどで作業を中断しなければならない場合、中断した位置を記憶して、再びその位置まで誘導する、など。

価格は税込み68万7960円～。

MGC1202WN

MGC200PN

20～22日、アグロイノベーション　テヌート

テヌートは、11月20～22日、東京ビッグサイトで開催のアグロ・イノベーション2018に出展する。▽ブース番号＝A2―19。

カワサキ機工　茶畑から仕上加工まで

「フェスタカワサキ」開催

川﨑社長

カワサキ機工（川﨑洋助社長）の「フェスタカワサキ2018」が10月26・27の両日、同社掛川工場で開催され3千名余が来場した。「弊社の強味は茶畑から仕上げ加工まで全行程を通じてお客様が作りたい・売りたいお茶に一貫して貢献できること。時代のニーズは変わっていく。それを捉えた機械を提供していきたい」（川﨑社長）を具現化した展示会となった。

茶畑の機械としては、「2段刈摘取ユニット」「乗用型複合摘採機」「サラウンドビューモニター」など。

まず、KJ8C・同10で好評の近年需要が旺盛なドリンク向け原料茶の摘採にも最適な「2段刈摘採ユニット」がより車高の低いKJ4CN・同6CNにも搭載可能となってこのほど受注開始。今回これを披露し大きな手応えを得た。

「2段刈摘採ユニット」のもたらすメリットは①ドリンク向けを長芽で刈りたくとも搬送ダクトに引っかかってしまうため2回で刈らなくてはならなかったものが1回で刈れる②コンテナに間隙少なく入るため重量的に多くを収容できるためトラックにあける作業回数が少なくて済む。このように作業時間を大幅削減。軽労化にもつながる。

このほか上芽だけ、下芽だけ偏在すると蒸気の圧力を変える必要があるが、上芽・下芽が均一に混在しているため蒸しやすい。

このようにメリットが非常に多く且つデメリットのない機械が「2段刈摘採ユニット」だ。

「低床型乗用型摘採機」は、抹茶、碾茶ブームが定着する中開発された、棚下茶園でも被覆作業の省力化・自動化、摘採が可能とあって関心が高かった。また、安全対策にサラウンドビューモニター（全包囲カメラ）を提案。サラウンドビューモニターは左・右・後・刃先の4方向をカメラで撮影、モニター画面に表示する。

そして最近非常に販売が好調なのが、乗用型防除機。担当者は「高精度にムラなく少量を均一に散布できることの経済性も含めた効果の認知が広がったためではないか」と話していた。また同社が開発したクワシロカイガラムシ防除用のカイガラ噴口（特許取得済み）も展示、近年のクワシカイガラムシの増加に伴って関心が高かった。

加工の分野の機械は屋内に仕上げ茶までを一貫して展示。生産者が求める商品としてのお茶機械を提案した。県が推奨する香り緑茶作りにも力を発揮するドラム式萎凋機（工程の最初に萎凋）は制御が容易で天日干しに近い高品質仕上げが可能でアワード受賞者からも高い評価を得ているという。

そのほか緑茶分析計、紅茶分析計、省エネを実現するエロフィン型省エネ粗揉機、従来の6割の設置面積というバージョンアップした新碾茶ライン（抹茶原料尾碾茶を作る機械）なども展示紹介され関心を集めた。

実機を前にしての検討には熱が入る

様々なお茶を展示。アワード受賞茶も

永田製作所　左右の切替が簡単

「サイドターンノズル」拡販

永田製作所＝田中寿和社長、大阪市西淀川区千舟1―5―41は、「サイドターンノズル」の拡販に注力している。

同商品は、昨年からユーザーと共同開発したもので、"左右の切替が簡単に出来たらいいのにね！"の声で、「マグネット切替機構」を開発。片畝ずつ丁寧に防除できる今までにないノズルと評価を得ている。

最大の特長は、左右の切替を磁石で素早く、正確に切替ができること。噴霧パターンは広角噴霧（ワイド噴板）。

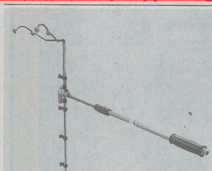
その他の特長は①右側噴霧、左側噴霧の切替がワンアクションでできる②菊用・立木野菜用に開発されたため、成長に合わせて4頭口・6頭口・8頭口と選択が可能③パイプはステンレス製で、軽量のため防除作業の疲れが軽減される。

用途は、立木野菜、菊・花など。

【サイドターンノズル主仕様】4頭口▽全長＝900㎜▽重量＝750g▽水量＝10・6ℓ/min（2.0MPa時）。6頭口▽全長＝950㎜▽重量＝860g▽水量＝16・1ℓ/min（同）。8頭口▽全長＝980㎜▽重量＝970g▽水量＝20・8ℓ/min（同）。

3機種共通仕様は、最高使用圧力2.0MPaで、ホース取付ねじはG1/4。（灌注竿は別売り）。

問い合わせは06―6473―0835。


サイドターンノズル

ササオカが新体制発表

ササオカ＝山崎清社長、高知県須崎市浦ノ内立目717＝は、10月19日、定時株主総会及び取締役会において役員人事を行い、次の通り新体制を発表した。

【ササオカ役員陣容】▽代表取締役＝山崎清▽取締役＝笹岡弘和▽同＝梅原一芳▽同＝岡村敏章（新任）▽同＝小原拓也（新任）▽監査役＝合隆。《敬称略》